

学校名		唐津市立鬼塚小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学習の質的な向上をめざし、学習の目的・内容・方法について、改めて検討を重ねていく。「客観的数値による児童実態の把握」「学ぶ目的の明確化」「学びが深まるための対話の在り方」「学びが深まるためのICT機器の活用」を観点とする。 ・この数年で希薄にならざるを得なかった児童同士のつながり、地域とのつながり、保護者とのつながりの推進を通じて、自己有用感等を感じ得させることで自主的・自律的な児童の育成をめざしていく。 ・特別支援教育の考え方や具体的な手立てを広く共有し、児童に寄り添った指導の充実を図っていく。	
2 学校教育目標	笑顔いっぱいの学校づくり ～温かい心で共に高め合い、主体的に取り組む子どもの育成を目指して～	
3 本年度の重点目標	① 考える力：「唐津の学びスタイル」を元に主体的対話的で深い学びの視点での授業改善を図る。 ② 心の力：家庭・地域と連携した体験活動や人権教育の充実を図ることで、自己肯定感を高める。 ③ 体の力：系統性を重視した意図的・計画的な健康教育と体育活動を行う。	

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1) 共通評価項目								
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・児童が学んだ内容、学び方、学んだプロセスを 自覚できるように振り返りを工夫する。	○児童アンケートで、「だいたい当てはまる」以上と回答した 児童80％以上。教職員アンケート「唐津学びスタイルで授 業を行い、評価・改善しながら授業改善に努めている」と回 答した教職員90％以上。	・唐津の学びスタイルに沿った授業を展開し、児 童主体の授業を行っている。数値目標として45 分の授業で児童の活動を30分以上取り入れる。	A	・全教職員が授業改善に努めていると回答したが、児童の 活動30分確保はまだまでであった。引き続き、児童自ら学 習できる授業改善を行っていく。 ・92％の児童が振り返りで、学習の定着と次時の見通しや 期待がもてていると考えられる。時間の確保や工夫を今後 も続けていきたい。	A	・児童が学習の振り返りをしっかりとしているところ がよい。フィードバックはとても大切だと思う。	・学力向上対策コーディネー ター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者 への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動 する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○①「命を大切にしている」②「まわりの人のことを思いや り、進んで親切にしている」③「差別をしないで、だれに対 しても同じように接している」について、肯定的な回答をした児 童85％以上	・人権教育（人権集会等）の全校的な取組の充実。 ・人権週間（11月下旬）を設定し、学級や学年で人権学習に 取り組む。	A	・①「命を大切にしている」96.6％②「まわりの人のことを思い やり、進んで親切にしている」89.9％③「差別をしないで、だ れに対しても同じように接している」87.5％と肯定的な回答を した児童がどの項目も85％をこえた。	A	・9割の児童が肯定的な回答をしているところがよい。 学年毎の特徴なども把握し、今後も思いやり の心や差別をゆるさない心を育む取り組みを継 続してほしい。	人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の 充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答し た教員95％以上 ○アンケートで「学校が楽しい」と回答する児童90％以上	・いじめアンケート等を通して児童の状況を把握し、いじめの早期 発見や早期解決に取り組む。 ・生活指導協議会や児童理解研修会等で気になる児童の情報共 有を行い組織として対応する。	B	・いじめアンケートを定期的に実施し、生活指導協議会を月 に1回行った。気になる子や問題行動について情報共有を 全職員で考えることができた。 ・アンケートで「学校が楽しい」と回答する児童が89％だっ た。	B	・「学校が楽しい」という質問に肯定的な回答をする児 童の割合は低くはないと感じるが、否定的な回答をし ている児童への対応を充実させ、今後のさらなる高ま りに期待している。	生徒指導担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向 けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている と思う」と回答した児童生徒85％以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定 的な回答をした児童生徒85％以上	・地域の方との交流や体験活動、学校行事等でサッカー カード（目標・振り返りカード）を活用し、自分を見つめる機会 を計画的に設定する。 ・桜カードに保護者や地域の方から児童へのメッセージを書 いていただくことで、自分や友達を多面的、肯定的に捉える 機会をつくる。	A	・掲示板が桜カードでいっぱいになり、自分や友達の一 年間の頑張りを肯定的に捉えることができた。 ・アンケート結果「先生はあなたのよいところを認めて くれていると思う」87.1％、「将来の夢や目標を持っ ている」84.7％だった。	A	・道徳教育の充実や児童の自己肯定感を高める ような取り組みを継続して行っているところがすば らしい。今後も継続してほしい。	道徳教育推進教員 各学年主任
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」	●休み時間に外で遊ぶ児童の割合85％以上 ●「健康に良い食事をしている」児童生徒85％以 上 ●児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする ○自転車の乗り方等について、「交通ルールを 守っている」と回答する児童80％以上	・天気の良い日に外で遊ぶことを推奨する。 ・運動会、持久走大会など体育的行事に向けた児童 の自主的な取り組みを進める。 ・給食週間に取り組む。 ・食育、給食指導の充実を図る。 ・避難訓練や安全教室などの計画的に実施する。 ・校区内の通学路や危険箇所の点検を行う。	B	・週に一回以上休み時間に外で遊んでいる児童が全体の6 2.8％だった。持久走タイムやなわとび週間などを設定し、 外で体を動かす児童を増やしたい。 ・持久走タイムを業間に設け、授業以外にも持久走に取り組 むことができた。 ・食育「給食週間」では、動画視聴をし、給食センターの方へ 感謝の気持ちを伝える活動や、残菜をなくす活動に全校で 取り組んだ。 ・ほけんだよりをとおして規則正しい生活習慣の重要性を指 導した。 ・避難訓練について計画的に実施することができた。今年度 の反省をもとに計画を見直していく。	B	・休み時間は、外で元気に遊んで欲しいが教室か ら運動場に移動するだけでも時間を要する。児童 がすすんで外遊びに取り組むような働きかけが必 要だと感じる。	保体部長 養護教諭 食育担当 安全教育担当
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削 減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間 の上限を遵守する。	・伝達事項は文面やグループウェアで伝え、協議する ものを絞ることで、職員会議を1時間以内、職員連絡 会は15分以内で行う。その達成率を80％以上とする。	A	・職員会議や職員連絡会に要する時間の目標は達成 することができた。職員間のグループウェアの活用 の頻度も増え、活用の幅が広がることによって、今後の さらなる業務改善にも期待が持てる。	A	・業務改善は難しさもあると思うが、先生方が「働き易 い」と言っているのはとてもいいことだと思う。 ・休日出勤の先生もおられることから更なる業務改善 を進めてほしい。	教頭
●特別支援教育の充実	●職員の特別支援教育に対する専門性の向上	●アンケートで、児童や保護者対応についての意 識向上80％以上	・職員対象の研修を行い、児童理解と指導力の向上 を図る。 ・定期的（1月に1回程度）にケース会議を開き、より 適切な指導に取り組んでいく。	A	・職員対象の「特別支援教育に関するアンケート」では、児 童や保護者への対応に困った時でも、周りの職員に相談し ながら進めることができた職員が多かった。 ・定期的なケース会議を通して、複数の職員で見取りをする ことでより細やかな児童の見取りや支援につなげることが できた。	A	・学校全体で特別支援教育に取り組んでいくこと が大切。今後もぜひ充実を図ってほしい。	特別支援コーディネーター

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・児童が主体的に学習に取り組んだり、人と関わったりできる環境づくりに学校全体で取り組む中で、学力の向上や心の教育に一定の成果を得ることができた。特に校内研究で取り組んでいる道徳教育については、前年度までの積み重ねに、他教科との関連を視点にもつことでより深い学びにつなげることができた。 ・休み時間に外遊びしている児童が目標値を下回っていることは課題だと感じている。体育的行事の充実や休み時間の外遊びの奨励など具体的な手立てを通して、体力向上を目指したい。 ・教職員の働き方改革については、事務作業の削減や、ICTを活用した授業の効率化、教育支援体制の充実等に積極的に取り組み、労働時間の短縮と業務の効率化を図っていく。
--------------------	---